

# なないろ森の園便り

平成29年6月20日発行

文責 肥野真紀子

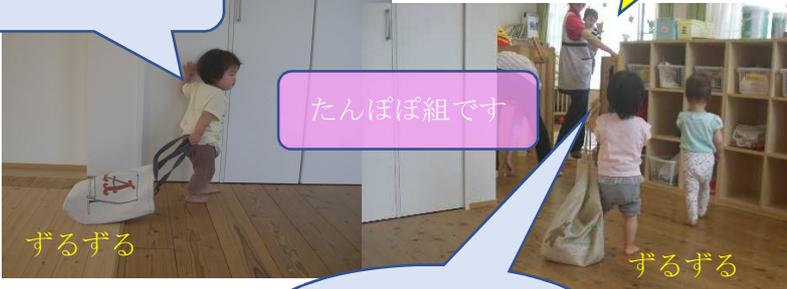
N0、2



♪ じめじめした梅雨がやってきます。外遊びが大好きな子どもたちにとっては残念な季節です。でも、視点をかえれば、いろいろな植物やカエル・かたつむりなど雨が降って嬉しそうな生き物にも出会えそうです。楽しく過ごせるよう工夫したいと思います。



よいしょ、よいしょ  
わたしはできる



ずるずる

たんぼぼ組です

できたね

ずるずる

せんせい、  
もってきたよー

チューリップ組に移動中です。大きな袋を肩にこそかけてはいませんが、ずるずると引きずっています。私が袋を持とうとすると、本人が嫌がります。「自分で持ちたいんです」と、保育士に言われて、はっとしました。あやうく**学びの芽**をつむところでした。自分でできることが1つずつ増えています。

幼児期は「**自分からやろうとする時**」が学びの始まりと言われています。だから、援助のタイミングが大切になってきます。園では、園児が自分から何かをしようとする時、「がんばってー」「もう少し」などのことばかけをします。肯定的なことばは、やる気をおこさせます。古田先生のクラスからは、いつも「じょうずー」「やったー」「すごーい」などのたくさんのきらきら言葉が聞こえてきます。言葉の力を大切にしている様子が伺えます。

**援助の3原則は、「適宜・適時（タイミング）・適量」と**言われています。今回は、援助のタイミングについてのレポートでした。

避難訓練は、毎回感心します。

旧館玄関前に避難しました。初めての園外への避難です。真剣です。泣いたり騒ぐ子は一人もいませんでした。火災と不審者の両方の訓練をしました。

お・か・しの約束



終わったら

こんなサプライズが待っていました

ドアをあけると、何ということでしょう??? お部屋にプールが待っているではありませんか。避難訓練の間に、福住先生が用意してくれていました。水遊び開始に向けて、子どもたちの気持ちを高めるためです。この後、新聞紙を水にみたくて遊びが続きました。もちろん、水遊びの注意事項についてもお話がありました。

幼児教育では時間をたっぷりかけて、幼児が「やってみたい」と思うように、環境を整えていきます。お友達は学びの環境といえます。

今回も、お友達がプールに足を入れると、それを見ていた他の子も一斉にはいりました。水遊びに向けて期待感が十分高まったと思います。プールには、そおーっと入ろうね。

「じゃぼーん」  
って入っていい  
かな?



だめ!